

第44回九州芸術祭文学賞（九州文化協会主催）の各地区優秀作が決まり、熊本地区の優秀作には阿蘇市の福祉施設代表、宮本誠一さん（50）の小説『運来』が選ばれた。次節は野口幸さん（52）「熊本市」の「空蟬」だった。

同賞は九州・沖縄在住者が対象。九州各県と福岡市、北九州市の11地区に分け、各地区の運営委員がそれぞれ優秀作を選ぶ。今回の応募作は268編で、熊本地区には19編が寄せられた。

各地区の優秀作10編を五木寛之、秋山駿、村田重代子、田山光子の4氏が最終選考し、最優秀作

九州芸術祭文学賞

熊本地区優秀作に

宮本さん（阿蘇市）

を決める。発表は来年1月末ごろの予定。

宮本さんの「運来」は、主人公の幼子がいながら、体調などを世用には職を考えている会社員が主人公。周囲の人々との出会いの中で、働くことの意味や人生の価値を直視する。

題名の「運来」とは「中日の位」にある前人が住む町で、追いかけても行き着かない場所、と宮本さん。「昔々には何か、西の国にさういふ場所があった。大戦後の1945年11月5日「なごさ」新聞に掲載された「空蟬」だ。